

ジビエ処理加工施設の 今後の運営について



質問者
田代 実 議員



県内初となる公設型ジビエ処理加工施設は、2月19日に落成式が挙行され3カ月が経過しました。しかしながら、施設は未だ稼働されておりませんので、次のことについて町長のお考えを伺います。

(1) 施設にはミンチャスライサー、真空パックの機材などが備えられているが、これらを使って精肉に加工して販売するための研修は。

(2) 販売するために、真空パックした商品への品質表示・販売単価・一般客用のレシビなどが必要と思うが、それらについて運営を委託する猟友会との調整は。

(3) 猟友会員が個人で解体した肉を、その方が真

空パックして販売することだが保健所の許可はとれているのか。また個人では戦略的な販売が難しいので一元化して販売すべきと考えるが。

A 大量の肉を計画販売していくことにも取り組む



回答 (町長)

(1) 7月に第2回解体処理研修を実施する。その後9月まで、ミンチャスライサー、真空パック等の機材を使って精肉加工研修を支部単位に延べ18

回程実施し販売につなげるようにする。

(2) 品質表示のラベルや一般客用レシビは、町が主体となって進めていく。販売価格と販売方法などは、ジビエの解体と販売に実績のある所へ、町職員と猟友会員とで先進地視察を実施、その他の先進的な事業所の事例などを参考に、猟友会と連携して進めていく。

(3) 保健所の営業許可は、2月21日に取得している。施設での加工と販売は、捕獲者処理方式による個人販売なので、大量の肉を計画的に販売する戦略についても、関係機関と調整して取り組んでいく。



第1回解体処理研修 (3月20日)

誰一人取り残さない 町の取り組みを問う



質問者
南雲 まさ子 議員



(1) 全国の小中学校で不登校の児童生徒が急増し、文部科学省は令和5年3月31日に、学びの保障を実現していくこと「CO-COLOプラン」を発表しました。これを受けて町の「CO-COLOプラン」の今後の取り組みについて伺います。

A 幼児・児童・生徒、町民に寄り添えるように、支援を進める



回答 (教育長・町長)

(2) 地球温暖化の影響で、猛暑による熱中症の被害が心配されます。そこで、熱中症の発生の予防を強化する取り組みについて、町のお考えを伺います。

(3) 発達障害は生まれつき脳の働き方の違いで、行動面や情緒面に特徴が表れ、養育者が育児の悩みを抱えたり、子どもが生きづらさを感じたりします。そのため、就学前

(1) 登校対策として、教育支援センター設置や、家庭訪問で関係機関や児童相談員と連携し、個別に対応できるようにしている。今後CO-COLOプランを参考にし、一人一

人に応じた多様な支援の環境整備、実効性を高める取り組みを目指す。

(2) 熱中症警戒アラート発令時は、防災行政無線やあんしんメールで周知し、熱中症の基礎知識や対処法は広報まつだ・ホームページ、回覧等で対応している。今後チラシ作成やSNS等で注意喚起し、高齢者を地域全体で見守る等予防の強化を図る。



松田町クーリングシェルター実施中!

(3) 健康診査で課題があれば、就園前の準備ができるようフォローアップ教室に案内している。今後できる限り地元で支援が受けられるよう、医療機関や関係機関と連携していく。